

「不倫も文化」なんてどこかの芸能人が言いましたが、文化は人を豊かにするもの、しかし、不倫はどうでしょうか？ 社会の一番基礎の信頼関係・生活共同体である「結婚」を破壊し、孤立をさらに生み出す「惑わしの力」なのではないでしょうか。

この記事を読んでいるまじめな？ クリスマンには関係ないと思われるかもしれませんが、アメリカではクリスマンの離婚率も、一般とあまり変わらないようです。

ここで、アメリカでベストセラー本となった Every Mans' s Battle *2 の中に出てくる話を紹介しましょう。

T 牧師（既婚）は、自分の担当しているミニストリーに参加した笑顔の素敵な S さんとほかの働きでも一緒になりました。いつも S さんから笑顔で見つめられ、T 牧師も心惹かれていきました。ある日、涙ながらに夫についての悩みを打ち明けられ、相談に乗るうちに S さんのことが頭から離れなくなり、仕事場まで様子を見に行ったりしました。その後二人だけで話す時には、気持ちを抑えきれなくなり、ついにキスをしてしまったのです。その 1 回のキスで、仕事はもちろんのこと、妻と子どもたちの心には取り返しのつかないような大きな傷を与えてしまった・・・

実際の話です。

T 牧師からすれば、「浮気なんてするつもりはなかった、しているつもりもなかった。S さんの夫に対する怒りが湧いて、自分が守らなければとの思いが心を占めてしまい、自分でも思わぬ行動に駆られてしまった」ということでしょう。

また、ある夫は、妻に隠れインターネットの女性の裸体の画像に性的な興奮を覚え、自らの欲求を満たします。一方、まじめなクリスマンのフレッド（この本の著者）は、そんな画像は見ません。しかし、女性の下着の広告から昔の彼女との関係が思い起され、日中から空想の世界に入って、性的な満足を得るのです・・・

この本で記されているようなことは、すべての（？）男性が戦っている誘惑ではないでしょうか。

実は、Every Woman' s Battle *3 という女性向けの本もあります。仕事の同僚（既婚男性）との知的でユーモアにあふれた会話が唯一の楽しみで、「その人となら、朝まで話をしたい、それ以上の関係も求められたら応えてしまうかも・・・」との既婚クリスマン女性の葛藤も書かれているのです。夫とは、話をしたくない。いつも批判され、楽しいどころではない関係なのでしょう。

「ふたりは一体となる」（創世記 2:24）この信頼と愛を基本に、性も生活も一つとなっていく結婚に、すき間風が吹くと結婚の約束を忘れてしまうのです。どんなすき間風が、第三者の侵入を許してしまうのでしょうか。



神のかたちに造られた人間だから・・・ **新 結婚って？ 教えて、まり子先生！その 20**

愛の冷える時代での、夫婦の危機管理

第三者の侵入（浮気・不倫）

日本ホーリネス教団 川越のぞみ教会牧師 西岡 まり子
家族と結婚のカウンセラー FFFJ 評議員

第三者の侵入の危機（浮気・不倫）

結婚は契約。神と人との関係も結婚関係になぞらえるほどです。この人だけを人生の伴侶として愛するとの誓いですから、浮気・不倫など第三者の侵入が、契約違反の状況を生み出し、「二人の約束＝結婚」が破綻していくのです。このような不貞が離婚の理由として、イエスが言及された唯一のものでした（マタイ 5:32）。現代の離婚の理由でも、5 番目に男女ともにあげられているのが、異性問題です。

あまり紹介したくない数字ですが、浮気（結婚・交際相手以外に性関係を持っている）相手がいると答えた人の割合は、男性は、20 代が一番で 31.5%。理由は遊びたいから。次は 50 代で 28.9%。社会的な地位や、時間や金銭面の余裕があることが、女性からも魅力的に見えるから。ダビデのパテシェバとの姦淫も 50 代ではないかと言われています。

最近では女性も多く、40 代の 19%が最多で、子育てが終わり、夫は忙しく、女性の性欲が高くなる年代と言われています。出会いの多くは、会社や友人、学校、お酒の席、等のようです。（http://sagami-gomu.co.jp/project/nipponnosex/love_sex.html *1）

世界基準からみると、浮気をしたことがある、または、現在していると答えた男性は、日本が 27.1%で世界 1 位、女性は 15.6%で 2 位となっています。何という不名誉な数字でしょう。統計分析会社 N Y のグレープアワード・キャンディッドが 4000 名の既婚者（男 2000 名、女 2000 名）を対象に調査したのですが、ある程度の信憑性はあるのでしょうか。（<http://www.miccio.net/uwaki/uwakinowariai.php>）